

松江歴史館 NEWS

MATSU REKI

創刊号

2021.夏

開館10周年記念 館蔵名品展
「これまで、これから」
見どころ徹底解説!

Contents

- 2 館長あいさつ(創刊によせて)
- 2 【シリーズ】松江歴史館のお仕事
- 3 新収蔵品紹介
- 4・5 館蔵名品展「これまで、これから」見どころ
- 6 特別展「堀尾吉晴」開催特報
- 7 スポット展示・ミニ展示の紹介
- 8 【シリーズ】地域ゆかりの資料紹介

館長
あいさつ

創刊によせて

松江歴史館 館長 松浦正敬

松江歴史館は開館一〇周年を迎えました。おかげさまで多くの皆さまにおいでいただき、これまでに一八〇万人あまりの入館者をお迎えしました。皆さまには多大なるお力添えを賜り深く感謝申し上げます。さて、このたび、当館の博物館としての活動を広くお伝えするとともに、歴史文化や文化財に対しこれまで以上に親しみを持っていただきたいの思いから、「松江歴史館NEWS MATSURIKI」を創刊いたします。新しく収集した歴史資料や美術作品の紹介、最新の調査・研究の成果、そして地元
の歴史や文化財の情報についてわかりやすくお伝えします。



この「松江歴史館NEWS MATSURIKI」をとおして、市民の皆さまには郷土への愛着と誇りをより高めていただき、観光客や県内外の美術館・博物館ファンの皆さまには松江の豊かな歴史や文化を知り、きっかけとしていただければ幸いです。

シリーズ

松江歴史館のお仕事

その1

松江城授業プロジェクトの案内

毎年、松江市内の小学校・義務教育学校の6年生全員が松江城と松江歴史館を見学します。その案内を松江歴史館の学芸員と職員が担当しています。

松江城では、敵が城内へ攻め入れないための様々な工夫や、天守の構造などを実際に現地てんしゅで説明しています。

また松江歴史館では、松江城と城下町のなりたちや、松江藩の産業などについて展示資料を基に紹介しており、これまでに参加した6年生のみなさんからは「松江城にはたくさんの“しかけ”があることがわかった」「松江城のよさを多くの人に伝えたい」などの感想が寄せられました。松江の歴史や文化への関心を高め、地元により愛着を持ってもらうきっかけとなるように心がけて案内しています。



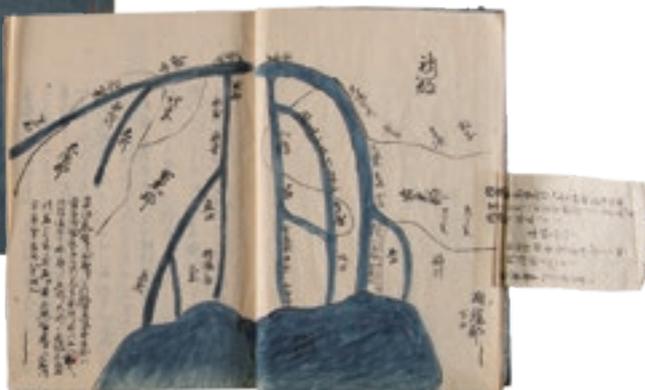
新 収蔵品紹介

MATSUE
REKISHIKAN

これらの資料は、
館蔵名品展「これまで、これから」で展示します。

松江歴史館では、歴史資料や美術作品などを中心に、収集方針に基づいて資料の収集を行っています。松江地域あるいは江戸時代の出雲国の歴史や文化を語る上で欠かせない資料、そして山陰地域さらに日本または世界の歴史や文化にとって重要な資料などが地域から失われるのを防ぎ、後世へ受け継ぐとともに、その価値を調査・研究・展示によって発信していきます。

松江藩の土木技術を集成



土工記 (令和元年度 購入)

松江藩の土木技術を集成した普請奉行の業務マニュアルです。斐伊川と宍道湖を抱える出雲国を治める松江藩にとって、治水対策は政策の要の一つでした。藩の治水を担当する普請方で奉行をつとめた富永頭が、藩の土木技術を集成し宝暦9(1759)年に記しました。今でも水防訓練で用いられる水留の工法「出雲結」も載っています。

藩の儒学者による馬の研究書

驪黄物色図巻 (令和元年度 購入)

藩の儒学者の黒沢石斎が校訂した馬の研究書です。石斎(弘忠、1612-78)は、松江藩松平家初代藩主の松平直政の求めで藩の儒者となりました。二代・三代藩主の学問の師となり、初期藩政において重要な役割を果たしました。黒沢家は、戦国大名北条氏に仕えた馬術に長けた家で、義兄黒沢定幸が編纂した馬の研究書を、石斎が校訂し、本図を完成させました。



桐鳳凰文会席膳 (令和元年度 寄贈)

本作は、八雲塗の創始者である坂田平一(1843-1908)の作品で、平成31年企画展「八雲塗—暮らしを彩る松江の漆器—」での展示をきっかけに、所蔵者から寄贈されました。現代の八雲塗よりも落ち着いた色味で、明治20(1887)年頃の草創期八雲塗に見られた中国漆器風の文様が描かれたものです。文様の輪郭線は銀色の金属粉で描き、緑や赤などの色漆で文様を彩色した上に透漆を塗布し、その漆を少し研ぎ出して仕上げています。

八雲塗の草創期を示す重要な作品



開館一〇周年記念 館蔵名品展

「これまででこれから」 見どころ徹底解説！

全62点
一挙展示！

松江歴史館は開館以来、松江に関する多くの貴重な歴史資料や美術作品の寄贈(寄附)・寄託を受け、また購入によっても資料の散逸を防いできました。開館一〇周年を機に、普段展示する機会の少ない収蔵品を公開します。松江の歴史や文化に新たな知見をもたらした収蔵品の数々から、松江歴史館のこれまでのあゆみと、これからのあり方を考えます。



松江城天守、 約285年前の修理の証し

松江歴史館の館蔵品には松江城天守の完成時期を明らかにした「慶長十六年正月」墨書銘の祈禱札(国宝附)がありますが、ほかに松江城天守の歴史を物語る品を多数収蔵しています。このうち元文2-4(1737-39)年の年紀を墨書する松江城天守の部材(古材)は、元文年間に天守が大掛かりに修理されたことを教えてくれます。一部には「御奉行 竹内左助」「御大工 斎田彦四郎」などの墨書もあり、修理を担った人物も知ることができます。



松江城天守墨書古材(部分)

中世の『出雲国風土記』 受容を知る貴重な史料

『出雲国風土記』は江戸時代以前にどのように読まれ、継承されたか謎でしたが、松江城下の外中原の寺院・灰火山宝照院の由緒として伝えられた「灰火山社記」の発見で、戦国時代における『出雲国風土記』の伝来を示す史料として稀有のものです。紙継の紺紙1メートル84センチの卷子で、金界を施し、849字の金字を刻みます。



灰火山社記(部分)

展示品は全て撮影OK! ※フラッシュ撮影はご遠慮ください。

当館学芸員によるリレー講座

時間:14:00~15:00 定員:各30名
会場:松江歴史館 歴史の指南所

- 7/17(土) 「松江歴史館10年のあゆみと館蔵品」(西島 太郎)
- 7/23(金・祝) 「館蔵絵画の魅力 —江戸時代の水墨画から昭和時代の油絵まで—」(藤岡 奈緒美)
- 7/25(日) 「松江藩の工芸文化 —不昧の職方について—」(藤間 寛)
- 8/1(日) 「若槻禮次郎の肉声を聞く —若槻禮次郎コレクションより—」(新庄 正典)
- 8/7(土) 「松江の歴史をあらわす工芸品」(大和多 弥生)
- 8/22(日) 「館蔵品にみる国宝松江城天守の歴史」(木下 誠)

無料
(要電話申込)
☎0852-32-1607

主な館蔵品を 当館ホームページで公開中!

当館所蔵の資料をインターネット上で公開しています。本展に出陳していない資料も写真付きで見ることができます。また、明治から昭和の懐かしい松江の写真なども公開中です。ぜひ活用ください。



直政へ譲られた、 家康の守り本尊

千体不動尊は、徳川家康が出陣に際して常に傍らにあった陣中不動尊と伝わります。孫の松平直政はこれを所望し、譲り受けました。直政は不動尊を伴って大坂の陣に臨み勝利を得ます。以来、直政とともに越前国大野、信濃国松本、出雲国松江と移って城内に安置されたのです。その後、江戸の赤坂にあった松江藩上屋敷に遷され、屋敷内の護摩堂「深造院」に安置されました。松江歴史館開館にあたり、旧松江藩主松平家から寄贈を受けた逸品です。



故開運千体不動尊



梨子地籬菊文蒔絵鞍・鐙

松江藩松平家伝来の 豪華な鞍と鐙

全体に蒔絵を施した鞍と鐙です。文様を盛り上げ立体的にみせる高蒔絵で大輪の菊を表現し、菊の蕊や葉などは切金と呼ばれる小さい正方形の金銀の薄板を並べ、豪華かつ細やかな装飾が施されています。鞍の裏側に「天正五年八月日」と安土桃山時代の年号が刻まれています。本作には江戸時代後期の特徴がみられます。慶応元(1865)年に松江藩の軍艦八雲丸が将軍の上洛にお供したことに對して、幕府から十代藩主松平定安へ与えられた作品と考えられています。



楽山焼色絵蘭亭曲水図大壺

細密な絵付に注目! 特大の壺

楽山焼の大きな壺で、高さは66センチにもなります。全面に色絵が施され、把手と首の部分には草花や昆虫がいきいきと描かれます。器体には中国の逸話で日本でも画題として好まれた「蘭亭曲水」の図が細かく描かれ、逸話のとおり川の downstream で老師たちが流れてくる酒を待ち構えています。壺には「雲州月章」と絵付師のサインがありますが、この人物については不詳です。しかし、山や岩の描き方をみると水墨画をよくした絵師と思われる。



INFORMATION

館蔵名品展
これまで、これから
—松江歴史館10年のあゆみ—

図録 発売中!
(税込990円)

松江歴史館がこれまで10年の間に行ってきた展覧会や事業についての概要報告と、館蔵名品の図録をあわせた書籍を刊行します。ミュージアムショップでも販売予定です。ぜひお手に取ってご覧ください。



国際文化観光都市70周年記念
松江歴史館開館10周年記念

【館蔵名品展】
これまで、これから
—所蔵品一挙公開—

令和3年7/16(金)ー8/29(日)

※会期中展示替えを予定

主催 松江歴史館

会場 松江歴史館 企画展示室
開館時間 9:00-17:00(観覧受付は16:30まで)
休館日 毎週月曜日
※ただし8月9日(月・休)は開館、
8月10日(火)が休館日
観覧料 大人300円(240円)
小・中・高・専門・大学生 無料

※基本展示室とのセット券:大人650円(520円) ※()内は20名以上の団体料金 ※高校生以上は学生証をご提示ください。※各種イベントの詳細はチラシやホームページで随時ご案内します。また、新型コロナウイルス感染症の影響により予定を変更する場合があります。

松江歴史館開館一〇周年記念

特別展

「戦国の世を馳せた武将

堀尾吉晴

開催特報!

堀尾吉晴は現在の愛知県大口町の地で生まれ、織田信長に仕えます。豊臣秀吉の将として各地を転戦し、佐和山城主、浜松城主となった戦国武将です。秀吉の死後は徳川家康に近づき、関ヶ原の戦いでは息子の忠氏とともに徳川方に付きます。その功績から忠氏は出雲・隠岐両国二十四万石を与えられ現在の安来市の富田城

に入ります。忠氏の死後、吉晴は松江に城と城下町を造り上げ、『松江開府の祖』と呼んでいます。松江市、安来市、愛知県大口町の三市町で組織した堀尾吉晴共同研究会が昨年度にまとめた研究成果をふまえて、吉晴が武将として成長し、松江城を築城するまでの一生を紹介します。



10年ぶりに松江へ里帰り!
吉晴生前の姿を知る唯一の立体像

堀尾吉晴木像

(春光院〔京都府〕蔵)

堀尾家の菩提寺である妙心寺塔頭春光院が所蔵する堀尾吉晴の木像です。吉晴の左頬には大きな傷が刻まれています。家臣から「頬切れ殿」と呼ばれていた記録があり、生前の姿を忠実に再現したのでしょうか。もともとは松江に安置されていましたが、堀尾家断絶に伴い、代々の木像や石塔とともに春光院に移されました。松江歴史館の開館特別展で展示して以来、10年ぶりの公開です。



秀吉から厚い信頼を得た吉晴
大切な文書を譲られる

明王贈豊太閤冊封文

(大阪歴史博物館蔵、重要文化財)

冊封文とは中国の皇帝が他国を臣下として認めたことを示す文書です。豊臣秀吉による朝鮮出兵(文禄の役)では、明国が朝鮮を支援したために戦線が膠着し、和平交渉が行われました。その際に明国皇帝から豊臣秀吉に贈られたもので、臣下と見なされた秀吉は激怒し冊封文を破り捨てたといわれています。しかし実際は破られることなく、秀吉のそば近くに仕えた堀尾吉晴に譲られたのです。堀尾家断絶後は縁戚にあたる石川家が所蔵し現在まで伝わりました。

展覧会情報

【特別展】松江歴史館開館10周年記念
戦国の世を馳せた武将

堀尾吉晴 主催/松江歴史館

令和3年

9/17(金)-11/23(火・祝)

休館日 毎週月曜日 ※ただし11月22日(月)は開館
開館時間 9:00~17:00(観覧受付は16:30まで)

※9/17(金)のみ展示室は10:00開場(セレモニーのため)

会場 松江歴史館 企画展示室

観覧料 大人600円(480円)

小・中学生300円(240円)

※基本展示室とのセット券:大人880円(700円)、小・中学生440円(350円) ※ ()内は20名以上の団体料金。※高校・大学・専門学校に通う学生は学生証の提示で団体料金

講演会

9/19(日) 13:30-14:30

「『松江開府の祖』堀尾吉晴公の

ふるさと紀行 ~堀尾氏邸宅跡を訪ねて~」

(講師:西松賢一郎氏/大口町歴史民俗資料館学芸員)

ギャラリートーク

9/17(金) オープニングセレモニー後

9/20(月・祝)、10/2(土)、11/3日(水・祝)

いずれも13:30~14:10

担当学芸員による展示解説を行います。

イベント

10/2(土) 9:30-12:00 「松江城攻略に挑む!」
(フィールドワーク)

※各種イベントの詳細は特別展チラシやホームページで随時ご案内します。また、新型コロナウイルス感染症の影響により予定を変更する場合があります。

スポット展示・ミニ展示の紹介

スポット展示とミニ展示は、新収蔵品や最新の研究にまつわる資料、四季にあわせた作品などを特集展示する館内の小さな展示スペースです。おおよそ2ヶ月に一度、展示替えをしています。

ミニ展示

不味陶像設置1周年記念 「松平不味展」

松江藩七代藩主松平治郷（号・不味）の没後200年を記念し、その功績を顕彰して薬山焼で不味公像が制作されました。江戸後期の大名茶人として知られる不味は、石州流など諸流派を学び独自の茶風を示しました。また『古今名物類聚』『瀬戸陶器蓋觴』など茶道具の研究に努め、収集品は「雲州名物」と呼ばれて重用され、さらにはお好みの茶道具の数々を作りました。松江に茶文化を根付かせた不味ゆかりの品々をご覧ください。



武蔵野図蒔絵茶碗(個人蔵)



不味陶像

会期:8月31日(火)~10月3日(日)
(月曜休館)
会場:展示室前展示ホール(観覧無料)

ミニ展示

松江のものづくり — 鑄金家・三代目遠所長太郎の仕事 —

三代目遠所長太郎(1897-1969)制作の唐銅菊文手焙と、鑄金に必要な下絵や道具などを展示します。遠所家は松江藩釜方の流れをくむ鑄物師で、明治初め頃に初代長太郎が松江市栄町で銅器鑄造業を始めました。三代目長太郎は、灯籠・鳥居などの大作をはじめ、茶道・華道の用具など幅広い分野の鑄物を制作し、商工展・共進会等で数々の受賞に輝きました。作品の大半は第二次世界大戦時に供出されてしまいましたが、松江大橋の唐金擬宝珠は現在に伝えられています。



唐銅菊文手焙

会期:10月5日(火)~11月28日(日)
(月曜休館)
会場:基本展示室最終コーナー
(要基本展示観覧券)

スポット展示

松江藩の医師と医術 — 田代家と芦田家 —

一族が松江藩と鳥取藩に仕えた医師・田代家が伝えた薬師如来坐像には、体内に薬師三尊像と十二神将像が納められています。七代藩主松平治郷(不味)が帰参を願ったのがかつて松江藩医で、鳥取藩医となっていた田代家でした。室町時代、中国の最新医術を日本にもたらした田代三喜の流れを汲み、医術と仏教との融合の痕跡がみられます。あわせて、松江藩医芦田家の史料も展示します。

会期:8月3日(火)~10月3日(日)(月曜休館)
会場:基本展示室最終コーナー
(要基本展示観覧券)



田代家の薬師如来坐像

※上記の展示資料は一部をのぞき当館蔵

基本展示室も展示替えがあります

基本展示観覧料 大人510円
小・中学生250円(20名以上の団体は2割引)

年間パスポート 大人1,560円
小・中学生780円

基本展示と企画展示、松江ホール
エンヤ伝承館が1年間何回でも無料

松江藩の歴史や文化を紹介する基本展示室(常設展示)では、お越しいただくたびに楽しんでいただけるよう、3か月に一度、大名行列図や町絵図、刀剣などの資料を替えています。詳しいスケジュールなどは随時ホームページでご案内しています。

地域ゆかりの資料紹介

わがとこに、 何があるか？

【川津編】

出雲弁で「わたしたちの地域に何があるの？」
という意味。

松江歴史館は、松江地域ゆかりの歴史資料や美術作品を多数収蔵しています。このシリーズでは、収蔵資料や近年調査した資料などを地域ごとに紹介します。今回は、今年度春に開催した企画展「旧制松江高等学校—松江で学び、暮らした学生たち—」（4/16～6/27）にちなみ、旧制松江高等学校（現島根大学）があった川津地区ゆかりの資料について紹介します。

旧制松江高等学校（旧制松高）は、現在の島根大学の前身にあたる学校のひとつです。明治末期から戦後まで存在した旧学制に基づく学校で、帝国大学進学をめざすエリート候補生たちが全国から集まり、日々勉学に励んでいました。

旧制松高は、松江ゆかりの人々の涙ぐましい努力によって島根県待望の高等学校として設置されましたが、建設場所として選ばれたのが八束郡川津村菅田（現松江市西川津町）です。現在は開発が進んだ川津地区ですが、当時は一面に田畑が広がっていました。

た。また建設費などの費用とするため、八束郡の人々や県内の高額納税者から寄附が集められました。

現在の島根大学教養講義棟二号館のあたりには、寄宿舎「自習寮」が建てられました。建設工事で考古遺物が見され、建設地に古墳があることが判明しました。「薬師山古墳」と名付けられた古墳の遺物は、山陰地域の須恵器の編年の指標にされ、考古学上重要な資料として位置づけられています。

自習寮では、毎夜のように生徒たちによる「ストーム」（寮



旧制松高の本館に付けられた校章

歌を歌ったり騒いだりする、旧制高校独特の文化）が行われ、その喧騒に菅田の人々は驚き、眠れない夜を過ごしたそうです。

戦後の教育改革によって全国の旧制高校の廃止が決定しましたが、昭和二十四年には旧制松高の機能と精神を引き継いだ島根大学が開学し、菅田の地は現在に至るまで島根の最高学府を擁する場所となっています。



旧制松高の門札。昭和二十五年三月の開校まで正門につけられていた。



通学する生徒たち。現在の県道431号線と城北通り・島大通りの交差点付近。



自習寮で使われた食器類。陶器は緑色の2本線があしらわれたもので統一されている。

※画像の資料はいずれも当館蔵